

嶺北地域アクションプランの進捗状況等について

嶺 北 地 域 本 部

令和3年2月18日（木）

嶺北地域アクションプランの進捗状況等

R3. 2. 18

嶺北地域本部

1 地域アクションプランの令和2年度の実施状況（総括）

(1) 総評

嶺北地域アクションプラン（25項目）については、嶺北4町村において相互に関連する取り組みや、4町村全てに関わる取り組みが多いことから、常に連携を図りつつ、各町村のまち・ひと・しごと創生総合戦略等の取り組みとベクトルを合わせながら推進している。

また、これまで地域アクションプランの取り組みと連携させた畜産と林業の2つの地域産業クラスターに加えて、新たに農業クラスターを追加することで、地域へのさらなる波及効果を生み出すべく取り組みを進めており、現在、次世代型園芸用ハウスの整備が進められている。

世界的な新型コロナウイルス感染症拡大に伴う全国的な経済活動の停滞や地域間交流の減少により、当地域でも4～6月期においては、営業活動の制限や生産活動の停滞、各種施設の営業休止があり、販売額の落ち込みや交流人口の減少が各所で見られたが、緊急事態宣言が解除されて以降、GoToキャンペーン等の効果も見えはじめ、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた営業・生産活動の拡大や観光・宿泊施設の利用者の増加も見られるなど、徐々にではあるが各分野における経済活動に動きが見られはじめている。

農業分野では、3町のJA出資法人等が中山間農業複合経営拠点として策定（1法人は策定中）した事業戦略に基づく取り組みを進めており、また、ブランド米や地域で代々受け継がれてきた銀不老などの生産の拡大を図りながら取り組みを進めている。

畜産分野では、土佐あかうしの増頭が順調に進んでいるほか、大川黒牛の生産体制の強化に向けて取り組みを進めている。また、昨年度にはHACCPに対応した土佐はちきん地鶏の食鳥処理・加工施設を整備し、生産から加工・販売までの一貫体制を確立し、県内をはじめ大都市圏での販路拡大に取り組んでいる。

林業分野では、さらなる原木増産や安定供給を図るとともに、木質バイオマス発電施設の整備など、地域内での連携した取り組みや森林組合への支援に取り組んでいる。また、集落活動センター西峯におけるスギのコンテナ苗は、集落の基幹ビジネスとなるように生産技術の向上や栽培量の拡大に取り組んでいる。

観光分野では、アウトドアヴィレッジ本山や新たに整備されたカヌーテラス等の拠点施設を中心に、さらなる交流人口の拡大に取り組んでいるところであり、また、昨年度開催された「2019土佐れいほく博」の成果と課題を踏まえながら、4町村及び地域内の観光関係者がさらなる連携をし、地域経済の活性化を図るため、令和2年12月1日に（一社）土佐れいほく観光協議会が設立されたところである。

そのほか、地元産の酒米にこだわった日本酒の販路拡大に向けて、令和元年度に新たに整備した工場において増産に取り組むとともに、国内外での営業活動や地元酒米農家の確保に取り組んでいる。

(2) 具体的な動き

| 項目 | 取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応 |
|--|--|
| <p>■No. 5 銀不老による地域活性化の取り組み (大豊町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・大豊町銀不老生産組合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)城西館 ・大豊町 | <p>[指標]</p> <p>出荷量</p> <p>出発点 (H30) : 0.59t</p> <p>到達目標 (R2) : 0.6t</p> <p>目標 (R5) : 1.2t</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>出荷量 (R2. 12 月末) : 0.13t (対前年同期比 : -%)</p> <p>※昨年度の同時期出荷量は 0t</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大豊町銀不老生産組合設立 (R2. 3 月) ・区長便や町内一斉放送による銀不老生産の呼びかけ (5~6 月) <p>組合員登録数 39 人 (R 元 : 種子配布者 30 人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大豊町銀不老生産組合総会 (種子配布会) を開催 (6 月) <p>種子 25 kg を配布 (R 元 : 12 kg)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銀不老交流イベントの実施 (8 月 : 播種・11 月収穫) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円滑な運営体制の確立及び銀不老の普及活動 ⇒新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら、組合員相互の意見交換、情報共有を進めるとともに、イベント等を開催し、さらなるブランド化を進めていく。 ・栽培技術等の普及・指導 ⇒新たな栽培者の確保に向けて、普及・指導の会議等の開催を実施していく。 |
| <p>■No. 6 本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト (本山町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・エフビットファームこうち(株)</p> <p>◎・施設野菜農家</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本山町 ・(一財)本山町農業公社 ・JA 高知県 (土長地区) | <p>[指標]</p> <p>(1) 施設野菜出荷量</p> <p>出発点 (H30) : 107t</p> <p>到達目標 (R2) : 107t</p> <p>目標 (R5) : 360t</p> <p>(2) 新規就農者数 (施設野菜 : 雇用就農含)</p> <p>出発点 (H28~R 元) : 1 人</p> <p>到達目標 (R2) : 6 人</p> <p>目標 (R2~R5) : 6 人</p> |

| 項目 | 取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応 |
|--|---|
| <p>※地域産業クラスター関連（本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト）</p> | <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 施設野菜出荷量 (R2. 11 月末) : 102t (対前年同期比 : 107.0%)</p> <p>(2) 新規就農者数 (R2. 11 月末) : 1 人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・剪枝剪定実証圃の設置 (甘長トウガラシ、1 箇所) ・「スマート農業推進協議会」の開催 (2 回) ・加工商品開発の検討会 (3 回) ・本山さくら市でのおむすびテスト販売 (6 月) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA 高知県れいほく園芸部の品目ごとの現地検討会と連携した活動の実施 ⇒環境測定・日射比例制御かん水・自動開閉装置等の導入に関する情報提供や作業軽減に向けた実証実験を行い、各農家のニーズに応じた支援をしていく。 ・次世代型園芸用ハウスの施設整備に合わせた人材育成、雇用者募集の実施 ⇒施設整備スケジュールに合わせ、人材確保について検討を進める。 <p>○産地力強化のための担い手の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA 高知県れいほく園芸部の担い手支援と連携した活動の実施 ⇒JA や生産部会等から情報を収集し、水田等の農地情報や、空きハウスなどの情報を担い手に提供していく。 <p>○二次・三次産業との連携の具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスター形成による関係二次・三次産業への経済波及効果の拡大 ⇒パプリカ規格外品の活用に向けた加工品の開発の検討や、施設を活用した農業体験ツアー等の検討を進めていく。 |
| <p>■No. 9 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化（大川村）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(株)むらびと本舗</p> <p>◎・(一社)大川村ふるさとむら公社</p> | <p>[指標]</p> <p>(1) 黒牛の販売額</p> <p>出発点 (H30) : 7100 万円</p> <p>直近値 (R 元) : 5,485 万円</p> <p>到達目標 (R2) : 5,405 万円</p> <p>目標 (R5) : 7,500 万円</p> |

| 項目 | 取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応 |
|--|--|
| <p>・大川村</p> <p>※地域産業クラスター関連（嶺北畜産クラスタープロジェクト）</p> | <p>(2) はちきん地鶏の出荷羽数</p> <p>出発点 (H30) : 7.4 万羽</p> <p>直近値 (R 元) : 7.6 万羽</p> <p>到達目標 (R2) : -</p> <p>目標 (R5) : 12.5 万羽</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 黒牛の販売額 (R2. 12 月末) : 3,638 万円 (対前年同期比 : 82.9%)</p> <p>(2) 出荷羽数 (R2. 12 月末) : 4.96 万羽 (対前年同期比 : 86.5%)</p> <p>○黒牛</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出荷頭数 : 34 頭 (12 月末) <p>○はちきん地鶏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県和牛肉等販売促進緊急対策事業（農産物マーケティング戦略課事業 : 県 6 月補正予算）による在庫処分 (7.5t) ・産業振興推進総合支援事業費補助金(ステップアップ事業)を活用したはちきん地鶏事業の推進体制の強化に向けたデューデリゼーション開始 (7 月～) ・産業振興アドバイザー(課題一貫支援型)を活用した販売戦略の見直し ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用した生産体制の高度化（自動給餌器等の導入）(12/14 交付決定) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○黒牛</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繁殖雌牛の増頭 ⇒一貫生産体制の充実に向けた体制や牛舎増築等の検討 ・新型コロナウイルス感染症の影響による販売の落ち込み ⇒オンラインを活用した販売促進イベントなど新たな取り組みの検討を行う。 <p>○はちきん地鶏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はちきん地鶏事業推進体制の強化 ⇒デューデリゼーションの結果を踏まえ、事業の推進体制の強化を行っていく。 ・新型コロナウイルスの影響で不透明な需要や変化する |

| 項目 | 取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応 |
|--|---|
| | <p>顧客ニーズへの対応 ⇒自動給餌器の導入により、人件費の削減や鶏肉の品質向上に努め、更なる販路拡大に取り組んでいく。</p> |
| <p>■No. 12 嶺北地域内のシソ・ユズの活用による地域振興（本山町）</p> <p>《実施主体》 ◎・(有)さめうらフーズ ・集落活動センター汗見川 ・生産者</p> | <p>[指標]</p> <p>シソ・ユズ商品の販売額 出発点（H30）：0.65 億円 到達目標（R2）：0.65 億円 目標（R5）：1 億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>シソ・ユズ商品の販売額（R2. 12 月末）：0.5 億円 （対前年同期比：124.61%）</p> <p>※主力商品であるしそ商品の販促活動や生産量の拡大により、販売額が伸びている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新工場に導入する機械設備の検討（4 月～） ・汗見川地域とシソ生産量について協議（5 月） ・耕作放棄されたゆず農園の情報収集（7 月） ・新商品「本山おいしそサワーの素」の発売開始(10 月～) ・しそ販売促進キャンペーンの実施（10～12 月） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新工場整備にあたっての計画の作成 ⇒R3 年度に計画している新工場の整備に合わせ、事業計画の策定等の作業を行う。 |
| <p>■No. 17 嶺北地域で 140 年間続く酒蔵の地産外商を核とした地域活性化（土佐町）</p> <p>《実施主体》 ◎・土佐酒造(株)</p> | <p>[指標]</p> <p>(1) 売上高 出発点（H30）：1 億 5,067 万円 直近値（R 元）：1 億 5,066 万円 到達目標（R2）：1 億 8,500 万円 目標（R5）：2 億 2,000 万円</p> <p>(2) 地元産原料米調達量 出発点（H30）：88t 直近値（R 元）：101t 到達目標（R2）：105t 目標（R5）：125t</p> <p>(3) 従業員数 出発点（H30）：15 人 直近値（R 元）：16 人</p> |

| 項目 | 取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応 |
|----|--|
| | <p>到達目標 (R2) : 19 人 目標 (R5) : 25 人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 売上高 (R2. 12 月末) : 150,000 千円 (対前年同期比 : 101.3%)</p> <p>(2) 地元産原料米調達量 (R2. 12 月末) : 100t (対前年同期比 : 97.0%)</p> <p>(3) 従業員数 (R2. 12 月末) : 18 人 (対前年同期比 : 94.7%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まるごと高知オンラインショップでのコレクト販売 (4 月) ・オンラインショップで高濃度エタノールとセットにした家飲み限定セット販売 (5 月) ・SNS 等で産地の風景や酒造りの様子が分かる PR 動画の公開 (5 月) ・県内や四国を中心とした量販店等への営業強化(6 月～) ・フランス日本酒品評会 Kura Master 「桂月 Sake Nature 2019」プラチナ賞受賞 「桂月 CEL24 純米大吟醸 50」他 3 種金賞受賞 (9 月) ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用した建屋整備及び加工設備の導入 (12/11 交付決定) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○新型コロナウイルスの影響で不透明な需要や変化する顧客ニーズへの対応 ⇒衛生環境の向上や需給調整ができる体制整備により品質向上に努め、高まっている高価格帯の商品のニーズに対応していく。</p> <p>○国内外での販路拡大 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による各種商談会の中止 ⇒販路拡大に向けて、顧客と交流を行うことができるオンライン上での仕組等を検討していく。</p> <p>○地元産原料米の調達拡大 ・土佐町酒米生産拡大交付金を活用した酒米農家への対応</p> |

| 項目 | 取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応 |
|---|--|
| | <p>⇒同交付金を活用して酒米生産を始めた農家による生産拡大を通じて、酒米のさらなる確保に取り組んでいく。</p> <p>○雇用の創出及び地域活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体ツアーの受入態勢の強化等 <p>⇒新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、ツアー受入態勢を整えていく。</p> |
| <p>■No. 18 大豊町のジビエを活用した新たな商品開発と販路拡大 (大豊町)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎・猪鹿工房おおとよ ◎・燈ので家 ・大豊町商工会 | <p>[指標]</p> <p>(1) 処理頭数 (猪鹿工房おおとよ)</p> <p>出発点 (H30) : 163 頭</p> <p>到達目標 (R2) : 200 頭</p> <p>目標 (R5) : 300 頭</p> <p>(2) 出荷量 (燈ので家)</p> <p>出発点 (H30) : 0t</p> <p>到達目標 (R2) : 1.8t</p> <p>目標 (R5) : 2.1t</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 処理頭数 (R2. 12 月末) : 72 頭(対前年同期比 : 59.0%)</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により、出猟回数が減った等の理由で捕獲頭数も減少している。</p> <p>(2) 出荷量 (R2. 12 月末) : 0.19t (対前年同期比 : -%)</p> <p>※昨年度の同時期出荷量は 0t</p> <p>○猪鹿工房おおとよ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT を活用した捕獲技術の実践 (4 月～) ・ 新商品の開発 (4 月～) ・ オンライン販売に向けた HP リニューアル(9 月～) <p>○燈ので家</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商談会への参加 (R2. 2 月) ・ 産業振興アドバイザー(課題解決型)の活用による嶺北産鹿肉を 100%使用した犬・猫用ジャーキーの首都圏への販路拡大支援 (4 回) ・ 土佐 FBC の受講 (R2) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○猪鹿工房おおとよ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材確保 <p>⇒新商品の開発や生産体制の拡充に向けて、必要な人</p> |

| 項目 | 取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応 |
|---|---|
| | <p>材確保の検討を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・捕獲個体の品質管理の強化 ⇒トレーサビリティシステム導入など先進的な個体管理手法の検討を進め、品質管理の強化に取り組む。 ・ICTを活用した新たな捕獲技術の導入 ⇒通年で安定的な捕獲ができる体制を構築する。 ・加工品の開発及び販促活動の推進 ⇒新たな顧客獲得に向けて、HP等によるオンライン販売を行う。 <p>○燈ので家</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットフードの生産及び販路拡大 ⇒産業振興アドバイザー(課題解決型)の助言に基づき、首都圏でのテストマーケティング等を実施し、生産及び販路拡大に向けた取り組みを検討していく。 |
| <p>■No. 19 嶺北地域の連携による交流人口の拡大(嶺北地域全域)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(一社)土佐れいほく観光協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本山町 ・大豊町 ・土佐町 ・大川村 <p>※地域産業クラスター関連(嶺北畜産クラスタープロジェクト)</p> | <p>[指標]</p> <p>(1) 主要観光施設の入込客数 出発点(H27~H29平均): 284,813人 直近値(R元): 333,608人 到達目標(R2): 167,000人 目標(R5): 391,000人</p> <p>(2) 主要宿泊施設宿泊者数 出発点(H27~H29平均): 14,577人 直近値(R元): 23,691人 到達目標(R2): 12,000人 目標(R5): 25,000人</p> <p>(3) 民泊受入世帯数 出発点(H30): 89世帯 直近値(R元): 86世帯 到達目標(R2): 93世帯 目標(R5): 120世帯</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 主要観光施設の入込客数(R2.12月末): 226,103人 (対前年同期比: 80.7%)</p> <p>(2) 主要宿泊施設宿泊者数(R2.12月末): 15,700人 (対前年同期比: 75.1%)</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により4~6月が激減したものの、夏以降はアウトドア施設等のニーズ</p> |

| 項目 | 取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応 |
|---|---|
| | <p>の高まりやGoTo トラベル事業の効果により一定持ち直している。</p> <p>(3) 民泊受入世帯数 (R2.12月末) : 89 世帯 (対前年同期比 : 108.5%)</p> <p>○広域観光組織の立ち上げに向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4 町村長による広域観光組織設立の決定 (5 月) ・「土佐れいほく観光協議会」(任意団体) の設立 (6 月) ・土佐れいほく観光協議会幹事会の開催 (6~11 月) ・高知県広域観光推進事業費補助金の交付決定 (7 月) ・事業戦略策定ワーキングの実施 (10~12 月、6 回) ・「(一社)土佐れいほく観光協議会」の設立 (12 月) <p>○教育旅行の推進に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中四国・関西におけるセールス活動の実施 (12 月) <p>○嶺北畜産クラスターに関連した取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行における嶺北畜産物の利用促進の検討 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)土佐れいほく観光協議会の各種事業の実行 ⇒事業戦略 (R3~R5 年度) を策定し、官民の関係者が一体となって広域観光の推進に向けた PDCA を回していける体制を構築する。 ⇒嶺北地域の情報発信やセールス活動を行うとともに地域の観光人材育成のための研修等を実施する。 ・教育旅行の推進体制の整備 ⇒地域の活動者や行政との連携による研修会の開催を行い、農家等民泊受入家庭を確保するとともに、安全管理や体験交流メニュー等民泊の品質向上対策に取り組んでいく。 |
| <p>■No. 20 嶺北広域観光アウトドアの里づくり (嶺北地域全域)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・ 本山町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大豊町 ・ 土佐町 ・ 大川村 ・ 本山町白髪山・工石山保全活用推進協議会 | <p>[指標]</p> <p>(1) モンベルアウトドアヴィレッジ本山の利用者数 出発点 (R 元.7~11 月) : 38,451 人 到達目標 (R2) : 50,000 人 目標 (R5) : 50,000 人</p> <p>(2) 白髪山・工石山への観光客数 出発点 (H28~30 累計) : 54 人 直近値 (H28~R 元累計) : 147 人 到達目標 (R2) : 160 人 目標 (R5) : 200 人</p> |

| 項目 | 取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応 |
|--|---|
| <p>※地域産業クラスター関連（本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト）</p> | <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) モンベルアウトドアヴィレッジ本山の利用者 (R2.12月末)：48,443人(対前年同期比：97.1%)</p> <p>(2) 白髪山・工石山への観光客数 (R2.12月末)：31人 (対前年同期比：47.0%)</p> <p>※ハイシーズンの秋に登山道の工事があり通行止めとなったため、伸び悩んだ。</p> <p>○アウトドア拠点施設の誘客対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトドアヴィレッジ本山と本山町の営業活動等の協議（6月～） <p>○白髪山・工石山への誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンベルが作成した登山やサイクリングルートマップを観光施設に配布（4月～） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトドア拠点施設の円滑な運営 ⇒町と指定管理者との定期的な協議を継続し、課題となっている団体宿泊棟の活用を図っていく。 ・嶺北広域での事業展開 ⇒(一社)土佐れいほく観光協議会等との連携を進め、域内観光資源を活用した体験型観光商品等を造成していく。 ・登山ルートの整備及びガイド育成 ⇒体験プログラムの実施と並行してガイド人材の育成を図っていく。 |
| <p>■No. 21 嶺北地域における山岳観光の推進 (嶺北地域全域)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・大川村</p> <p>◎・(一社)大川村ふるさと公社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本山町 ・大豊町 ・土佐町 | <p>[指標]</p> <p>白滝の里施設利用者数</p> <p>出発点 (H30)：9,071人</p> <p>直近値 (R元)：10,597人</p> <p>到達目標 (R2)：－</p> <p>目標 (R5)：15,000人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>白滝の里施設利用者数 (R2.12月末)：330人 (対前年同期比：22.3%)</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響のため、利用者数が大きく減少している。</p> |

| 項目 | 取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応 |
|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・「でいぐ！大川村」HP 及び Facebook 情報発信 (4月～) ・星空観察会、登山ツアー等のイベント実施 (7月～) ・昆虫専門家による昆虫観察・樹木医による自然観察の2新規プログラムの実施(8月・11月) ・産業振興アドバイザー(課題解決型)の活用による白滝の里の観光客受入再開に向けた新型コロナウイルス対策支援(7月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規プログラムの開発及び既存プログラムの磨き上げによる山岳観光の推進 ⇒サイクリングやさめうら湖面を活用した体験プログラムの造成及び運営支援の業務委託を検討していく。 ・人材の育成・確保 (プロジェクトリーダー等) ⇒地域おこし協力隊の活用、民間企業を活用した専門研修やOJT研修の実施を進めていく。 ⇒(株)ソラヤマいしづちの人材育成事業への参加 |
| <p>■No. 22 さめうら湖の活用をはじめとしたスポーツ・ツーリズムの振興 (土佐町)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎・土佐町 ◎・民間事業者等 <ul style="list-style-type: none"> ・大川村 ・本山町 ・大豊町 | <p>[指標]</p> <p>(1) さめうら荘利用者数 出発点 (H30) : 15,961人 直近値 (R元) : 19,000人 到達目標 (R2) : 25,000人 目標 (R5) : 28,000人</p> <p>(2) カヌー拠点施設利用者数 出発点 (H30) : 0人 到達目標 (R2) : 380人 目標 (R5) : 1,520人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) さめうら荘利用者数 (R2.12月末) : 14,533人 (対前年同期比 : 71.7%) ※新型コロナウイルス感染症の影響のため、宿泊者数が減少している。</p> <p>(2) カヌー拠点施設利用者数 (R2.12月末) : 1,149人 (対前年同期比 : -%)</p> <p>○さめうら荘への誘客</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPの開設、オンライン予約の開始 (5月～) ・経営戦略策定に向けたアドバイザーの導入 (6月～) |

| 項目 | 取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応 |
|---|--|
| | <p>○さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カヌーアカデミーの実施 (4月～) ・カナディアンカヌーツアーのコース造成 (6月～) <p>○カヌー拠点施設への誘客</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP プレオープン (5月～) ・地域おこし協力隊 (ガイド) 2名雇用 (6月～) ・施設オープン (9月) ・早明浦森林公園活用に向けた検討 (11月～) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早明浦森林公園の整備 <ul style="list-style-type: none"> ⇒アフターコロナ・ウィズコロナを見据えて観光施設等緊急整備事業費補助金を活用して、キャンプ場として集客できるよう整備。カヌー拠点施設、さめうら荘と併せて「さめうらレイクタウン」とし、自然体験型観光の拠点として交流人口の拡大を目指す。・年間を通して利用者が訪れる取り組みの構築 ⇒カヌー拠点施設の円滑な運営に向けて体制の強化を進めていく。 ⇒湖面・湖畔アクティビティ等の観光商品磨き上げや、森林公園等の周辺施設の整備の検討を進めていく。 |
| <p>■No. 25 集落活動センター汗見川による地域活性化の取り組み (本山町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・汗見川活性化推進委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本山町 | <p>[指標]</p> <p>(1) 宿泊者数 (延べ)</p> <p>出発点 (H30) : 838 人</p> <p>直近値 (R 元) : 892 人</p> <p>到達目標 (R2) : 1,400 人</p> <p>目標 (R5) : 1,400 人</p> <p>(2) シソ原液出荷量</p> <p>出発点 (R 元) : 7,092L</p> <p>到達目標 (R2) : 9,000L</p> <p>目標 (R5) : 9,000L</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 宿泊者数 (R2.12月末) : 430 人 (対前年同期比 : 49.0%)</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響のため、昨年度と比べ宿泊者数が大きく減少している。</p> <p>(2) シソ原液出荷量 (R2 年度実績) : 8,460L (対前年同期比 : 119.3%)</p> |

| 項目 | 取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応 |
|----|---|
| | <p>○大阪市西区との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生向け「副読本」の作成に向けて協議(5月～) <p>○イベント及び体験メニューの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファンクラブの会員募集(4月～) ・新型コロナウイルス感染症対策(中山間地域振興アドバイザー導入)の実施(6月～) <p>○シソの生産拡大及び加工品の販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培マニュアルの作成(4月～) ・さめうらフーズと連携した新商品の検討(4月～) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○大阪市西区との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携したイベントへの出展 ⇒新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、西区におけるイベントへの参加が難しくなっている状況だが、小学生向け副読本の作成を含めたその他の活動を進め、西区との交流拡大に向けた協議を進めていく。 <p>○イベント及び体験メニューの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナでのイベント等実施 ⇒新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため今年度のイベントは中止とし、オンラインによる体験メニューの実施を進めていく。 <p>○シソの生産拡大及び加工品の販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培マニュアルの作成 ⇒町内の他エリアでの生産拡大に向けて、栽培マニュアルの作成を進めていく。 |

2 令和2年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況(交付決定又は採択事業)

| 取り組み | 事業概要 | 総事業費(補助金額) |
|---|--|------------------------------|
| <p>■No.9 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産の活性化(大川村)</p> <p>※ステップアップ事業</p> <p>6/11 交付決定</p> | <p>土佐はちきん地鶏事業実施主体の経営改善に必要な経営分析と改善計画の策定支援</p> | <p>8,000千円 (2,000千円)</p> |

3 県民参画に向けた取り組み

- ・嶺北地域各関係団体(商工会、森林組合、観光協会等)へ第4期計画 ver.1の説明(9月実施)

4 相談案件：2件

| NO. | 相談日 | 事業種別 | 相談内容 |
|-----|-------|------|--------------------------|
| 1 | 10/12 | 地域振興 | 廃校を活用したシェアオフィス及び宿泊施設事業関係 |
| 2 | 11/12 | 地域振興 | 都市部企業のリフレッシュ支援プログラム事業関係 |

地域産業クラスタープロジェクトの推進

地域に根差した産業を核として、その周りに様々な産業を集積させる「地域産業クラスター」の形成に取り組むことにより、第一次産業から第三次産業までの多様な仕事を創出し、若者が地域で働き続けられる土壌づくりを目指しています。クラスター形成を目指す「クラスタープロジェクト」として、18のプロジェクトを位置づけており、その一つひとつに、県、市町村、関係団体等で構成する「プロジェクトチーム」を設置し、プランの策定からその実行までをサポートしていきます。

| 地域 | 分野 | プロジェクトNo.・名称 | 取り組み概要（目指す姿） | R2年度までの取組内容 | |
|--|-----------------------------|--|--|-----------------|---|
| 嶺北 | 農業 | No.5 嶺北畜産クラスタープロジェクト | <p>「土佐あかうし」「大川黒牛」「土佐はちきん地鶏」のさらなる生産拡大と6次産業化による付加価値の向上を図る。また、さめうら湖や山岳資源を活用したスポーツツーリズムにより観光振興・交流人口の拡大を図りながら、レストラン事業等の展開も検討する。</p> | これまでの取組（H28～R元） | 畜舎等整備による土佐あかうしの飼養頭数の増加や、大川黒牛肥育牛舎の整備及び「大川村プロジェクト」の推進による販売増につながった。また、加工のための食鳥処理施設の整備や、土佐れいほく博（R元、7月～12月）等の活用により交流人口の拡大及び消費拡大を図った。 |
| | | <p>関連する地域AP</p> <p>No.8 土佐あかうしの競争力の確保</p> <p>No.9 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化ほか</p> | | R2年度の取組 | <p>土佐あかうしは、他地域の生産状況の把握やあかうし増産のための技術的支援の実施を行うとともに、土佐はちきん地鶏は生産体制の効率化や販売戦略の見直しを行った。また、外商公社と連携したPRなど販売促進を行った。</p> <p>【今後の方向性】 土佐あかうし及び土佐はちきん地鶏の経営改善</p> |
| | 林業 | No.6 嶺北林業クラスタープロジェクト | <p>県内外の若者が山に関する仕事に就くことができる環境を整備するため、嶺北地域の豊かな森林資源を活用し、安定的な木材生産・供給システムを構築する。</p> | これまでの取組（H28～R元） | 安定的な木材生産・供給システムの構築に向けて、森の工場（小規模な森林をまとめて一体的に整備したもの）の認定を推進するとともに、ストックヤードの整備を進めた。また、木質バイオマス発電施設の導入に向けた検討を行ってきた。 |
| <p>関連する地域AP</p> <p>No.10 嶺北地域における林業クラスター化の取り組み</p> <p>No.11 れいほくスケルトン（嶺北材の別邸販売）をはじめとする嶺北材の促進ほか</p> | R2年度の取組 | <p>森の工場の認定数が増加（H28：37団地→R元：44団地）するとともに、大豊町で整備していたストックヤードが稼働し、地域外への製材製品の安定供給が可能になった。また、木質バイオマス発電施設の建設に着手した。</p> <p>【今後の方向性】 嶺北材の需要喚起に向けた関係者間の連携強化</p> | | | |
| 農業 | No.7 本山市施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト | <p>次世代型園芸ハウスの整備等による農産物の生産拡大や担い手の確保を行うとともに、交流人口の拡大に向けた取り組み等との連携により、クラスターの形成を図る。</p> | — | (R2年度新規) | |
| <p>関連する地域AP</p> <p>No.4 直販所「さくら市」を核とした地域活性化</p> <p>No.20 嶺北広域観光アウトドアの里づくりほか</p> | R2年度の取組 | | <p>次世代園芸ハウスの整備を進めている。また、本山市農業公社と嶺北高校の学生がパブリカを使った加工品を共同開発するとともに、アウトドアレジャ本山（モンベル）と、農業体験ツアーの造成に向けて協議を開始した。</p> <p>【今後の方向性】 次世代園芸ハウスでの安定生産に向けた雇用者の確保及び本山市さくら市の売上高向上に向けた組織体制の強化</p> | | |